

コンテンツ専門調査会 企画ワーキンググループ（資料）

東京アニメセンター
久保 雅一

日頃より、当センターをご愛顧賜りまして、ありがとうございます。
また、資料など取りまとめてこられた事務局の方々のご努力にも感謝いたしております。
以下、ご提案させていただきます。

1) ハイビジョン対応による制作費高騰の問題

- ・ 2011年の地上波デジタル化に向けて、テレビアニメ映像のハイビジョン化が求められていますが、ハイビジョン制作に必要なコストアップ（音声2chでおよそ30%アップ）の問題が解決されていません。

2) アニメーター（クリエイター）の人材育成の問題

- ・ アニメはPCでの制作が進んでいますが、依然として実際に手で描くパートが重要であることは、ハリウッドも日本も変わりはありません。日本のアニメーターは高齢化してきており、さらに若いクリエイターが制作環境の厳しいアニメ業界を敬遠しがちな状況もあって、業外全体の大きな問題になってきています。

3) 3D-CG アニメコンテンツの制作に向けての課題

- ・ 世界的には日本が得意とする2Dのセル画タイプのアニメは、映画だけではなくテレビ番組としても時代遅れになりつつあります。今後は日本のアニメ制作会社が力を合わせて、CG制作アプリケーションなどの技術開発、制作資金・人員の確保に取り組む必要に迫られています。

4) 放送事業者の視聴率偏重に対するご提案

- ・ 各テレビ局の番組視聴率（特に全日）の比較競争を自粛してはいかがでしょうか？ 実態と乖離していると思われる数字に、振り回されていることをテレビ関連業界はもちろん、スポンサーたる一般企業も再考すべきだと思います。
- ・ 児童数の減少傾向と共に、子供向け番組がなかなか視聴率を取れない状況が加速しています。このまま、視聴率偏重主義を続けると子供向け番組事態が消滅してしまう危険があります。

5) テレビアニメーションの楽曲の権利について

- ・ テレビアニメーションの楽曲の権利（代表出版）については、テレビ局の子会社が優先的に占有している事例が見受けられます。海外展開する上でも重要な権利ですので、制作プロダクション保有が望ましいと考えます。

6) 寡占化が進む映画配給業界について

- ・ 映画会社出資のシネコンが拡大したことで、映画の制作、配給、興行が系列化され寡占化が進んでいます。上映ラインナップが画一化されてきており、大作以外が上映されづらい状況が見受けられます。中小規模の作品を支援する配給・興行システムの構築が望まれています。